

韓国哲学2

儒教(儒学), 朱子学, 支配手段, 王道政治, 王権擁護, 崇儒策, 科挙制, 政治哲学, 李滉, 李珥, 実学, 斥邪運動

1. 韓国儒教の性格

我が国の儒教は、高麗時代までの前期と朝鮮以後の後期との大きく二つに分けられる。前期は主に漢学や經学、主の時局、手段としての儒学であり、貴族の素養、及び学問を中心とした時期を指す。後期は朱子学朱子学時代として、それが一つの思想あるいは政治哲学として社会的に多大な役割を果たした時代を指す。

従って、前期は概ね各王朝毎に教育制度、学者、儒教道德などを中心に考察することで治国の意図、政治手段の性格を明らかにしなければならない。しかし、後期は朝鮮時代初期の儒教政策と主気、主理論に代表される朱子学の本質を重点的に説明した後、朝鮮後期の変質に力点を置くことが必要である。即ち、義兵抗争と斥邪為政が朱子学の伝統性に土台を置いたものであることを精察することが重要である。結びとして、儒教が我々の社会に残した役割を結論として付言し、歴史上に現われた儒学の輪郭の大枠を理解しなければならない。

2. 三国時代の儒教

三国時代は、古代国家であるため、強力な主権と厳格な階級体系が必要とされた。従って、君主政治の理想と、貴族の階級意識は忠孝の道德とともに漢学に代表される經学の発達をもたらすこととなった。ここに三国の儒学は、先ず教育制度に現われることになった。

これは国民の知識を向上させるという意味よりも、支配秩序の確立によって統治者が儒学を政治手段として用いたという点により大きな意味があったのである。高句麗の太学と經堂、百済の五經博士制も、そして新羅の花郎道の儒教的徳目によって、当時の儒学がもっていた姿を察しうるのである。即ち、この時代の儒教は、漢学としての実践倫理であり、王道思想の知識という大前提をもっていたものであり、従ってそれは統治者の合理的な支配手段であったことである。

3. 統一新羅の儒学

統一新羅の王権の絶対化は、儒教政治の発達を促進した。ここに儒教の政治理念がより強調されるに至り、神文王 2 年(682)に国学が設置され、論語、孝經など經学の重要性が遙かに高まった。それゆえ、元聖王 (원성왕) 4 年(788)に設置された読書出身科も儒教本位の人物の抜擢に重点を置いたことを反映した結果であろう。また、強首(강수)、薛聰 (설충)、崔致遠 (최치원) などの儒者が儒教による道德政治を主張したことも、正にこのような儒学の影響によるものである。特に崔致遠が無力を最終の手段とした平和主義を主張したが、礼も道に立脚した王道政治思想により王権を擁護したという事実は、古代政治における儒学の役割を端的に説明したものである。

4. 高麗時代の儒学

前期の崇儒策

王健は統一新羅末期の六等品系列の知識層から多くの援助を受ける関係を基に、儒教の発達に尽力するようになったが、その精神は西京（今の開城）の学院設置に現われた。引き続き光宗の時の科挙制の実施、成宗代の儒臣、崔承老（최승로）の重用と科学、教育制度の完備、そして文宗(문종)の代には、崔仲(최중)を重用し、崇儒策（留学を高く崇める政策）が続いた。

かくして成宗の代に国子監が確立され、官学（国で人材を養成するために設立した学校）の中樞的(中樞的,重要な)役を担当することになった。12世紀の睿宗の代に国学の再整備が続けられた。

高麗初期と中期の儒学思想

高麗初期の儒学思想も国家の崇儒策によって発達した。文治主義の理論的土台になった高麗の留学は、経学より詞章(或いは辞章。詩歌と文章を合わせて称する言葉)が主であり、学問的理論より政治的実用面が強調された。そして崔承老や金審言(김심언)に代表される10世紀の儒学思想は、儒教と仏教の調和という側面以外に、強力な王権を擁護し、積極的な現実参加と新社会の建設に能動的な性格を帯びていたのである。

しかし、11世紀以後、崔承老に代表される高麗中期の儒学思想よりは、貴族社会の安逸(楽でのんびりとした生活)を賛美し、その支配秩序を擁護する保守主義的な傾向が生まれた。その後、12世紀に至り金富弼(김부식)のような縁戚中心の現実に安住しようとする社会的な雰囲気と徹底的な事大主義(主体性がなく、勢力が強い国や人に奉じ仕える態度)思想が展開された。

高麗後期の社会変化と朱子学の伝来

武臣乱以後、高麗は一代転機を迎えることになった。貴族社会は根本的に動揺し、殿試科体制が崩れつつ、農莊が大きな社会問題として顕現化することになった。ところで、モンゴル支配以後、自我意識が高まり、それに伴って現実の矛盾に対する批判が強まった。このような雰囲気の中で仏教が極度に墮落し、伝統的な指導理念としての地位が崩壊し、思想的空白は新時代に相応しい新しい理念の出現を要求するに至った。

ここに高麗末期の官学復興に先に立った鄭道伝(정도전)、鄭夢周(정몽주)、李齊賢(이제현)などの斥仏論(仏教を排斥しようという主張)に便乗して、中国から流入した朱子学は新興士大夫の武器として急速に発展した。このような新興思想の出現は新しい社会の出発を意味することであり、なおかつ朱子学がもつ宗教としての排他的な性格と積極的な政治哲学は、韓国社会に新しい時代の到来を告げるものであった。

5. 朝鮮王朝の儒教

朝鮮初期の崇儒策

朝鮮は、朱子学を信奉する新興士大夫を背景として出**発**した王朝であったため、太祖**以来**、力強い崇儒策が推進された。これは鄭道伝の朝鮮經国典(경국진)をもとにした李成桂の政策と、太宗の崇儒策、そして世宗の一連の儒教政策によって充分に察することができる。特に世宗・成宗間の書籍編纂、集賢殿、弘文館などを通じた崇文策、また成均館以下の教育制度などは朝鮮王朝の崇儒策を説明するのに足るものである。しかし、このような伝統的な儒教政策によって高麗末期に流入した子学は大きく**発展**したが、それに伴う学派間の**対立**は大きな社会問題として鎌首をもたげていた。

朱子学の隆盛

朱子学は、高麗末期と朝鮮初期に二大系列に**発展**した。その一つは朝鮮王朝の**建国**に参加した鄭道伝、権近などの系列で、詞章中心の官学派である。今一つは地方に下って行った吉再(길재)の学統を**継承**した經学中心の史学派である。その後**16世紀**に至り、李滉(이황)と李珥(이이)によって朱子学は絶頂期を迎える。

李滉は、主理派の集大成者として人間の**内的**、**道徳的**意向または理性に主眼を置いた。一方李珥は、主**気**派の完成者として人間の**外的**感情と物質的な面に**関心**をもち、政治**参加**に積極的であった。その後、これらを引き継いだ後学は、それぞれ嶺南学派と畿湖学派を形成し**対立**した。その外に 趙光祖(조광조)の道学、宋時烈の礼論なども現われた。

朝鮮後期儒教思想の変質

このような形而上学的な朱子学は、結局**現実**から遊離した問題に焦点を置き**党争**を誘**発**し、官僚層の**対立**のみを助長させた。従って、壬辰倭乱と丙子胡乱以後の一連の反省が、これらに**対**する**自覚**として現われた。朴世堂(박세당)、尹鑰(윤휴)らは、反朱子学的な主張をした代表的な人物であった。その外、大多数の**実学者**も朱子学の非**現実性**を批判した。

このような朝鮮後期の**実学**は、**国民**を意識した最初の**学問的**反省としてそれが**内包**している**合理性**と**技術**の導入による**積極的な現実**の改造論は、開化思想の源となったという点に大いなる意味をもつ。

開化運動以後、外勢の浸透は、**韓国社会**を根本的に**動揺**させた。その上に日本**帝国主義**の浸透によって朝鮮の**経済**が破局を迎え、ここに儒生を中心とした**斥邪運動**が起こることとなった。これは**単純**に外勢を**排撃**するナショナリズム運動ではなく、朱子学の保守的な正統思想に即して**民族**の自主性を堅持しようとする**民族主義運動**であり、透徹した**民族意識**を守る運動であると言える。

6. 儒教の役割とその影響

以上、我々は**儒学**の**変遷過程**を精察しつつ、特に朱子学の**発展**及びそれがもつ**斥邪為政**の性格とを**併**せて考察した。要するに、**儒学**は我々の**社会**に次のような**影響**を及ぼすことになったと言える。

第一、**儒学**は王道思想を含めた政治思想を通じて**君主権の強化**と徹底的な階級意識を高め、**封建社会**の基本秩序の確立に寄与した。さらに、**道徳**と倫理とを通じて**社会正義**を具現し、**微風良俗**を開発したという**事実**である。

第二、**儒学**の排他的な保守性は、自ずから派閥意識(個別的な利害関係によって別に形成された**集団**の利益のみのための考え及び態度)を助長させ、**士禍**(朝鮮時代に官僚やソンビ**선비**が政治的**反対派**に追われ、血なまぐさい災いを被ったこと)、**党争**(政治**集団**間の争い)のような問題点を残すこととなった。その上、行き過ぎた閉鎖性は**学問**の萎縮は勿論のこと、**商業**、**工業**、**芸術**においても著しい制限を強いることになったという点である。しかし、**書院郷約**などは、それが**封建社会**秩序の手段となったとは言え、**農村**の**開発**と**発展**に寄与するところは大であったと思われる。

最後に、**朱子学**の排他的な保守性あるいは**伝統性**は、結局**国難**克服の精神的土台となって**義兵**や**斥邪運動**として現われた。これはとりもなおさず、**民族守護**という**澆刺**とした精神として**民族精気**の基盤となったと言える。

7. 実学

実学の概念とその特質

ア) 実学の概念：

実学とは、**壬辰倭乱**及び**丙子胡乱**以後の民族的反省と政治、**経済**、**社会**など全般的な**変化**に伴って現われた**学風**上の新傾向を指す。すなわち、**功利**、**空談**中心の**朱子学**の性格を脱し、**現実**的な方法によって**社会**の矛盾を改革しようとするのであり、また**英祖**、**正祖**の**文芸振興**をもとに**発展**した**学問**上の**変遷**を言う。

この**学風**の**変遷**は、主に中間階層である**中小地主**出身の**両班**官僚と**農村**の**ソンビ** (**선비**)、そして没落した**両班**である**南人系**の**学者**によって**主導**された。また、**学問**の**研究分野**は**朱子学**の**形而上**学的な**利己論**を越えて**政治**、**経済**、**社会**及び**国史**、**国語**、さらには**農業**、**医学**など**社会科学**、**国学**、**自然科学**のほとんどすべての分野に**拡**がった。

イ) **実学**の**特質**：**実学**は朝鮮後期の**社会**変動の**歴史的**所産である故、その**特質**は**多様**であった。従って**実学**をある一定の性格として規定することは不可能である。概ね a) **現実生活** - **農村**と**官僚制度**及び**奴婢制度** - に対する**批判精神**が明確で、その**改革案**を提示したという点、b) **功利**、**空談**ではなく**実用的**、**実質**的な**学問**と問題点を提起し、特に**富国強兵**と**民衆**の**生活安定**を追求し**民国民**全体について考えたという点、c) **実証**的、**科学的**、**合理的**な思想によって**国家**に対する**認識**を新しくし、**技術**と**商工業**を通じて**民衆**のための**改革**を**強調**した点が、これらの**共通点**と言える。

このような**実学**の**特徴**を具体的に注意深く調べると、第一、**実学**は**真相探求**の**学問**であり、**経世致用**と**利用厚生**の本質を備えたものであり、より**実質**的、**実用**的で、**現実**の**改革**に**主眼点**を置いた。すなわち**経世致用**の**学風**は**利益**を中心に**農村**中心の**重農主義**立場を代弁したものであり、

利用厚生¹⁾の学風は朴趾源(박지원)を中心とした北学派が都市中心の重商主義(mercantilism)の立場を取ったものと説明することができる。

第二、**実学**は合理的、**実証的方法**による**独創的**、**批判的な学風**を提示した。特に農村の**現実**、政治制度、奴婢制度などについて**専ら批判**を加え、さらにはその代案を提示した。この時土地制度の改革として均田制と中農政策を**強調**し、北学派は重商主義を打ち立てることで清の技術を取り入れて**現実改革の方法**を提起したこともあった。

第三、**実学**は**国家と民族に対する反省**とその**認識**を新しくした。すなわち**国史**、**国語**、**地理**を通じて民族の**疆域と伝統**を模索しようと**試み**、**透徹した民族意識**を**強調**し、所謂、三韓正統論を主張した。それは**近畿学派の史観**として渤海、高句麗**に対する再認識**と**主体的史観**の確立として**発展**した。

実学発生の背景

ア) **現実社会**に対する**反省**: **実学**の**発生**は、壬辰倭乱と丙子胡乱以後、政治、**経済**、**社会**の**混乱**によって**擾攘**に対する**反省**として破綻に直面した朝鮮王朝の**危機**に対する**精神的復旧**の動きから**出発**した。壬辰倭乱と丙子胡乱以後、**潰滅状態**に陥った朝鮮**社会**に対する**批判**と**自覚**は、**政権**から疎外された南人や中小地主系統の農村ソンビ(선비)や**学者**の中から**現われ**、**批判的反抗的**な性格を**帯びる**に至ったのである。

イ) **西洋文物の伝来**: 17世紀以後、西洋文物の導入は物質的な**科学文明**に対する**新しい認識**が芽生える、**功利**、**空談**の朱子学のもつ**欠陥**及びその**虚構性**が悟られることになった。ここで**形而上学的**な朱子学に対する**学問的**反省と**批判**の萌芽が見られ、**生活**の役に資する**実用的**な学風に**変わる**ことが要求された。

エ) **英祖**、**正祖**の**学問奨励**:

18世紀**英祖**、**正祖**による**学問奨励**と**太平策**の**実施**及び**文芸振興策**は、**豊富な書籍**の**編纂事業**と**学者**の**輩出**をもたらすこととなった。特に、奎章閣の設置は**学問**の**雰囲気**を醸成し、**学風**の**繁栄**と**学問**の**発展**に**決定的な役割**を果たし、**実学**発展の**踏み台**となった。

ウ) **考証学**の影響:

朝鮮の**学問研究**は**朱子学**だけに限られ、**陽明学**や他の系統の**儒学**は許容されなかった。しかし、17世紀以後、**清**の**考証学**が**伝来**し、**実証的**、**批判的な精神**が**鼓吹**され、**学問**に対する**態度**に**変化**が現れた。それはまず**国史**、**地理**に対する**研究**において**現われ**、**朱子学**に対しても**批判的な学風**が**開発**された。

8. 東学、天道教、大宗教

東学は哲宗 11年(1860)、慶州出身の水雲(수운)崔濟愚が起こした**教団**で、**両班階級**の腐敗した政治と**苛酷な搾取**により、すべての**民衆**が**苦痛**に喘いでいる折、**西洋の宗教**と**勢力**の**大きなうねり**が押し寄せ、**社外**の**風潮**と**一般**の**民衆**の**心**が**大きく動揺**した。この時、**西学**(カトリック)に**対立**して、**純朴**な**一般民衆**を**対象**とする**宗教**が**興った**。

東学は、3代教主の孫秉熙(손병희)によって天道教と改称されて今日に至っている。天道教は‘天一合一(천일 합일)’の境地を目標に置いている。

大宗教は民俗信仰として‘ハノルニム(한얼님)’を信仰対象とする韓国固有の宗教であり、1909年旧暦正月ボルム(보름)に、羅喆(나철)が開創した。

1. 儒教はいつ初めて用いられ、どんな役割を果たしましたか？
2. 儒学は長い間教育の面において重要な役割を果たしましたが、儒学と関係のある教育制度にはどんなものがありますか？
3. 朝鮮時代に入り儒学は多様な形に発展しますが、それぞれの傾向について話してみましょう。
4. 実学の発生した背景とそれに伴う特徴について話してみましょう。
5. 19世紀後半以後、韓国で発生した宗教は何ですか？

この時間では韓国哲学2について学習しました。

次の時間では韓国語の敬語法について学習します。

お疲れ様でした。